

夏、満喫

<今月の聖句> 「わたしは雲の中にわたしの虹を置く。」  
(創世記9章12～13節)

猛暑、という言葉どおりの日々が続いています。  
昼間、重い空気につつまきながら、園に向かって坂を登る私のすぐ脇を  
さっそうと駆け抜ける自転車がありました。突然、ききーッ。  
急停車して、サドルからひらりと舞い降りた男の子。  
小麦色に焼けた額に玉の汗をうかべ、黒髪をなびかせ、振り向きざまに  
「こんにちは!」。さわやかに笑顔で挨拶する、その顔は。

「もしかして、〇〇くん?」「はい!」  
「大きくなったなあ。夏休みどうだい?」  
「はい、すごく満喫しています」「ほほう、何して遊んでるの?」  
「はい、週5日、サッカーやっています。部活です。中1になりました」  
「週5日も。本当に好きなんだなあ。暑いけど、頑張れよ」  
「はい、ありがとうございます。」そう言って、別れようとする  
「あのう…」と呼び止められるので、振り向くと  
「僕、津田さんのことよく覚えてますよ」  
「本当か、ありがとう。うれしいよ。また会おうな」「はい!」

中1に向け「何して遊んでるの」は少し失礼だったかと反省するも、やはり  
つくしを巣立った子たちは、それぞれの場ですくすくと成長を続けている  
そのことを実感する、路上の再会でした。  
ほんの数分だったけれど、なんだか心が熱く、じーんとなりました。それに  
わざわざ呼び止めて、「覚えています」だなんて、少々照れ臭かったけれど  
きっと、彼のなかに渦巻くつくしへの愛着がそう言わせてのだと思います。  
まっすぐこちらを見つめる、透き通った眼差し。  
間違いのない、つくしの子だ。

(つくし保育園園長 つだかすお)